

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 2月 6日

1. 職名・氏名 准教授・藤野秀則

2. 学位 博士、専門分野 エネルギー科学、授与機関 京都大学、授与年 2008

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 当科目名（単位数） 主たる配当年次等 情報管理論（2単位 毎年開講） 3年生	
② 内容・ねらい（自由記述） 「情報の管理を通じた人と組織の管理」というコンセプトの理解を目的として、心理学や情報学、コミュニケーション科学といった学際的な視点から、情報と人や組織の行動・活動の関係を学ぶ。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面講義と併用であったが、対面講義を録画し、Goole Classroom にアップロードし、併せて毎回講義内容に即した課題を出した。課題については学生の負担を考え、選択問題を出題した。合わせてコメントや質問の収集を行い、寄せられた質問への回答を翌週の講義の中で行う形式をとった。質問内容はなかなか興味深く、当方にとっても勉強となる指摘も寄せられることもあった。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 情報システム（2単位 毎年開講） 2年生	
② 内容・ねらい（自由記述） 行政オープンデータのアクセス方法を学ぶとともに、オープンデータを用いて統計分析をソフトウェアを用いて行う手法を学ぶ。それとともに、質的データやグループワークの仕方を学ぶ。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） アクティブラーニングを行うことを念頭に、受講人数を40名に制限して開講したが、ふたを開けてみれば、受講生は10名のみであった。そこで5名ずつの2グループに分けた。学年をまたいでグループ分けしたところ、4年・3年・2年がうまく絡み合い、良い学び合いが出来ていた。	
① 当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習1（4単位 毎年開講） 3年生	
② 内容・ねらい（自由記述） 情報管理論や安全管理論の基本的な考え方を習得するとともに、研究を進めていく上での基礎スキルを身につける。また、理工系も含めた関連する他分野に対するリテラシーを築く。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） コロナ禍前のやり方にもどし、前期の間は、2人1グループに分けて、小研究を行ってもらい、後期からの本格的な研究にスムーズに入れるように努めた。後期はゼミコン出場に向けた研究の進捗状況報告を中心にした。さらに、ゼミコン後には、行った研究について卒業論文に準じたフォーマットで研究論文を執筆してもらい、それをもとにLaTeXを用いた論文執筆指導も行った。	
① 当科目名（単位数） 主たる配当年次等	

演習 2 (4 単位 毎年開講) 4 年生
② 内容・ねらい (自由記述) 自分たち自身で PDCA を回すスキルを身に付けてもらうことを目的に、各自でテーマを立てて、自分たち自身で研究を組み立てていくという実践を行った。また、論文執筆を通じて論理的思考や論理的な文章とはどういうものかについての指導を行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 年生と合同でゼミを開きながら、3 年生を 4 年生が指導する、という体制を作れるよう、できるだけ学生主体でのゼミ運営を行うように心がけた。ゼミ中は教員は意見を基本的に出さず、指導はゼミ後の時間がゼミ前の事前指導という形で行う形とした。卒業論文の執筆に関して、昨年度の演習 1 の際に使った LaTeX での執筆をしてもらった。
① 当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 外書講読 1 (2 単位 毎年開講) 2 年生
② 内容・ねらい (自由記述) ある程度まとまった量の英文をよむスキルと、それをまとめて発表するスキルを身に付けてもらうことを目的に、6 名一組で組織心理に関する論文を読んでもらい、その内容をパワーポイントをつかってプレゼンテーションしてもらおうというやり方を取った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 昨今話題となっている心理的安全性やサーバントリーダーシップに関する論文、およびこれらを紹介する Wikipedia 英語版のページをそれぞれ読んでもらった。精訳することよりも全体の主張をつかんでもらうことを目的に、訳を発表するのではなく、内容をプレゼンテーションしてもらおうことにしたが、結果として訳しているだけになっている様子であった。来年度はもう少し意図した形のプレゼンテーションをしてもらえよう、指示の与え方を工夫したい。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 経営情報特論 (2 単位 偶数年開講) 大学院生 (2022 年度)
② 内容・ねらい (自由記述) 「情報管理を通じた組織管理」の考え方について解説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 毎回講義終了後に Google Classroom を通じて小テストを課し、各自で講義内容を振り替えられるようにした。それと共に、質問事項を記入する欄を設け、質問やコメントを集め、次の講義のときにそれらへの返答を行うという形で、できるだけインタラクティブになるように工夫した。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 専攻演習 III 経営情報特論演習 III (4 単位 毎年開講) 大学院生
② 内容・ねらい (自由記述) 各自の修士研究について、各自で必要な調査を実施し、修士論文としてまとめる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 2 名の学生が受講生であったが、基本的にそれぞれのテーマに従って個別に研究や論文執筆指導を行った。また月に 1 回のペースで研究会を実施し、研究進捗を報告してもらうとともに、その内容について互いに議論をしてもらった。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 専攻演習 II (2 単位、後期・前期) 大学院生

② 内容・ねらい (自由記述) 各自の修士研究についての関連論文の収集と整理をしてもらうとともに、研究計画を立案していく
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 2名の学生(長期履修の社会人学生1名、留学生1名)が受講生であった。それぞれの研究テーマの希望に応じて個別に対応しつつ、月に1回のペースで研究会を実施した。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 専攻演習Ⅰ(2単位、前期) 大学院生
② 内容・ねらい (自由記述) 修士研究のテーマを定めるための興味・関心のある分野についての既往研究のレビューを行う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 1名の学生(留学生1名)が受講生であった。毎回、前回以降に調べた論文の内容を要約・発表してもらった。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 看護マネジメント特論(4単位、前期) 大学院生 うち、第23回~29回
② 内容・ねらい (自由記述) ヒューマンファクターやヒューマンエラーについて、実際の事件事例を参考にしながら理解を深めてもらう
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 2名の社会人学生(いずれも現役の看護師長)に対しての講義だった。単に一方的に解説していくのではなく、実際の医療現場の様子について逆に話を伺ったりしながら、双方向性をもたせた講義を行った。
(2)その他の教育活動
<p>内容</p> <p>コロナ禍の影響により実施できなかった京都大学下田研究室との合同ゼミを3年ぶりに再開した。現メンバーは初めての参加であったが、京大生に臆することなく積極的に意見をだしていた。また京大生からもこちらの研究についての建設的な意見を多数もらうことができた。</p> <p>経済学部ゼミナールコンテストについては、例年通りに開催することができた。ゼミコンに向けた研究ということで、学生のモチベーション向上には明らかにプラスの効果があるため、来年度以降も継続したい。</p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	
1. 秋保 亮太, 池田 浩, 金山 正樹, 藤田 智博, 後藤 学, 河合 学, 藤野 秀則, "安全の現場に求められるリーダーシップ:サーバント・リーダーシップと交流型リーダーシップによる安全パフォーマンスの向上", 産業・組織心理学研究, Vol.35, No.3, pp.365-379,2022.	【 1 本】
③その他論文（査読なし）	
	【 本】
④学会発表等	
1. 藤野秀則, 寺口司, 後藤学, 彦野賢, 河合学 : "病院組織における心理的安全性と職場の安全風土および安全パフォーマンスとの関係", ヒューマンインタフェース学会研究報告集, Vol.24, No.9, pp.13-16, 2022.	
2. 寺口司, 後藤学, 彦野賢, 河合学, 藤野秀則 : "病院看護師における心理的安全性-リーダーシップとの関係からの検討-", 第 37 回産業・組織心理学会大会発表論文集, pp.74-77, 2022.	
3. "藤野秀則, 寺口司, 後藤学, 彦野賢, 河合学 : ""病院看護師における心理的安全性と離職意思および安全志向モチベーションの影響関係"", 第 37 回産業・組織心理学会大会発表論文集, pp.70-73, 2022."	
4. 藤野 秀則, 中西 沙綺 : "優柔不断な人の購買行動後の満足度の店員の声掛けによる違い", ヒューマンインタフェースシンポジウム 2022 論文集, Vol., No., pp.580-586, 2022.	
5. 藤野 秀則, 朝山 結満, 五十嵐 遥愛, 石田 奈美, 小栗 成大彦, 鈴木 里奈, 堀内 佳太 : "作業遂行時の指差呼称がもたらす作業後の不安軽減効果", ヒューマンインタフェース学会研究報告集, Vol.24, No.2, pp.23-28, 2022.	【 5 件】
⑤その他の公表実績	
1. ヒューマンインタフェース・ステップアップキャンプ 2022 最優秀発表賞	【 1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
<ul style="list-style-type: none"> ● 株式会社原子力安全システム研究所との共同研究費 ● 学内競争的研究資金 県大戦略的課題研究推進支援※看護福祉学部有田教授との共同研究 	
(3)特許等取得	

(4)学会活動等

所属学会： ヒューマンインタフェース学会、産業・組織心理学会、日本人間工学会、計測自動制御学会、日本原子力学会、医療の質・安全学会

- ヒューマンインタフェース学会 評議員 (2021年度～現在)
- 計測自動制御学会北陸支部 運営委員会委員 (2019年度, 2020年度)
- ヒューマンインタフェース学会 研究会運営委員会委員 (2019年度～現在)
- ヒューマンインタフェース学会安全管理支援技術専門研究委員会幹事 (2017年度～現在)
- 日本人間工学会 安全人間工学委員会 (2021年度～現在)
- 2022年度安全工学シンポジウム実行委員 (2021~2022)
- 2023年度安全工学シンポジウム実行委員 (2022~2023)
- ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2022 実行委員 (2021~2022)
- ヒューマンインタフェース・シンポジウム 2023 実行委員 (2022~2023)

5. 地域・社会貢献活動

福井県原子力安全専門委員会委員

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- デジタル推進委員会委員
- 情報センター設立準備委員会委員
- 情報センター教員選考委員会委員
- サーバー更新ワーキンググループ
- 経済学部1年生相談担当教員
- 経済学部情報教育作業部会委員

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など